

《成果①》
新たな知見2020年度総合事業C：国際秩序変容期の競争と連携—
グローバルガバナンス再構築に向けた日本外交への提言経済と安全保障
リンケージ
新興技術

- ・ 経済と安全保障のリンケージ及び新興技術に関し、現在の国際政治では、安全保障上の理由により、中国では軍民融合が推進され、米国等では輸出管理や対内直接投資規制などが強化されるなど、当初想定した以上に、安全保障と経済が密接に結びついており、令和2年度を通じてこの傾向がますます強まっていることが明らかにされた。

地球規模
課題

- ・ 地球規模課題については、WHOの改革や強化、COVAXを通じたワクチン供給の重要性が指摘された。また、「仙台防災枠組」での感染症を含む様々な災害に対する枠組みのあり方が議論された。ポスト・コロナを巡る議論では、デジタル技術の活用、持続可能な経済成長、環境問題、高齢化社会などの諸課題との関連付けがされた。

中東・
アフリカ

- ・ 中東については、米国・イラン間の核交渉をめぐる対立を中心に、イスラエルとアラブ諸国間での関係正常化、トルコやイラン、サウジアラビア等の地域大国間の主導権争い、その代理戦争としてのシリアやイエメン、リビアの紛争の長期化・複雑化の現状等、混迷を極める中東情勢の現在進行形の諸相が明らかにされた。

✓ 成果を集約し、2020年のグローバルな戦略的変容を考察した『戦略年次報告』を発表

《成果②》
グローバルな知的ネット
ワークの構築

日本国際問題研究所

2020年度総合事業C：国際秩序変容期の競争と連携—
グローバルガバナンス再構築に向けた日本外交への提言

JIIA



米・戦略国際問題研究所
(CSIS)と共同ウェビナー開催 (2/11)



TGD2 分科会 I-3:
新型コロナパンデミック及び
マルチラテラリズムの危機 (2/26より)



TGD2分科会I-2:
「技術の地政学」を超えて? (2/26)より



TGD2分科会 II-4:
コロナ禍と戦略的変容における
中東情勢 (2/26)より

欧米トップシンクタンク（チャタムハウス（2020年7月）、CSIS（2021年2月））との共同ウェビナー開催、サプライチェーン見直しおよびハイテク分野でのサプライチェーンの安全に関する日米協力を議論

第二回東京グローバル・ダイアログ（TGD2）の開催：
海外シンクタンクや国際機関（WHO、世界銀行）のトップを招いた
グローバルな意見交換の場の提供

アジアや中東の主要シンクタンクとの意見交換を通じたネットワークの
継続・強化

駐日大使館等からの各種照会・情報提供
依頼への対応を通じた貢献等

海外主要シンクタンクとの活発な意見交換・ウェビナー開催、
グローバルな知的ネットワークの構築

《成果③》
タイムリーな情報発信

日本国際問題研究所 2020年度総合事業C：国際秩序変容期の競争と連携— グローバルガバナンス再構築に向けた日本外交への提言

JIIA



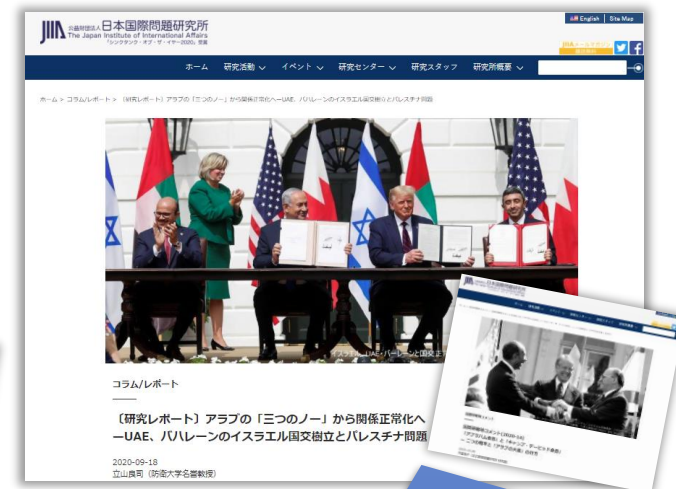
『国際問題』で「気候変動に直面する世界」「新型コロナウイルスに揺れる新興経済国」をテーマに、時機に合った特集をタイムリーに発信。



2020年11月署名の「**地域的な包括的経済連携（RCEP）**」に関し、署名式2日後に戦略コメント『**インド太平洋の経済連携とRCEP**』をタイムリーに発表。大手新聞社含む複数メディアや他シンクタンクレポートに引用された。



コロナ禍が加速させた経済安全保障の観点からのサプライチェーンの見直しに関する戦略コメント『**新型コロナ危機で見直されるサプライチェーン**』を発表（2020年5月）。在京大使館、報道関係より多くの問い合わせあり。



イスラエル・アラブ諸国間の関係正常化に関する連続発信・シナジー効果：
①研究レポート『**アラブの「三つのノー」から関係正常化へ—UAE、バハレーンのイスラエル国交樹立とパレスチナ問題**』（2020年9月）、
②戦略コメント『**「アブラハム合意」と「キャンプ・デービッド合意」—二つの和平と「アラブの大義」の行方**』（2020年10月）。

多様で経験豊富な研究会委員による国際情勢の趨勢を見極めた課題設定
（新型コロナウイルスとサプライチェーン、RCEP署名、イスラエル・アラブ間国交正常化）